

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail: info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 定価100円

重い障害のある人の地域の暮らし やはり入所施設ですか…??

「日本の失われた30年」というワードがよく使われますが、A-によると1990年初頭のバブル経済の崩壊後、日本経済が長期にわたり低迷した時期を指すと、あります。

今は更に人口減少に拍車がかかり、昨年の(2024年)日本の出生数は68万6千人、70万人を切ったとニュースで報じています。労働力不足が深刻化する2030年、高齢化率がピークに達する2040年問題は、より大規模な社会構造の変化が起き制度そのものの維持が困難とA-は示しています。

40年程前、えのき会の立ち上げの経緯は、北欧のノーマライゼーションの考えに大いに刺激と励ましを受け、地域の暮らしをぜひ実現したいと家族らが活動を始めたのがこの頃です。当時の社会背景は、バブルが破綻した日本と共にあったようです。拙著『えのきの親の30年』に記したように、福祉制度の遅々とした歩みを何となく感じながらも、必死な思いでこの子等のためにと、親たちが活動していた時期と重なります。

入所施設から地域移行へ、地域の暮らし、住み慣れた地域で暮らす、この

間、国が率先した取り組みは施設解体でした。

地域で介護を受けながら当たり前暮らしを「地域生活」という言葉は希望を持たせてくれるものでしたが、まだ大施設に暮らし利用者や、長期の療養患者を対象とされたようで、実際は入所施設の予算削減のためとも言われています。本当のところは、膨らんだ施設の予算削減のためであるとも言われます。

重い障害があっても自立し、グループホーム等それぞれが希望する地域の暮らしが可能であること、重度の人が暮らしやすい医療的ケアつき介護ホームなど等、それをサポートする人材の確保も併せて希望します。

長年に及び、介護報酬単価の低さが引き金となつてか、福祉に携わる介護職員の不足が更なるダメージとなつて福祉事業所の手足を縛っています。

まだまだ多くの人が福祉の支援を必要としています。また、地域であたりまえに生きたいと願う人たちも多くいます。この要求に伝えていきたいと考えていますが、伝えられていません。

遅々として進まない障害のある人の地域の暮らし、最後は昔あったような大型の入所施設へ逆戻りとなるのでしょうか？

障害のある人、特に重度の人の暮らしは、いつもおいてけ堀なのでしょうか？

『えのき会へご支援をお願いします』



- ☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。
- ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。
- ☆ 1口 1000円 何口でもOKです 上限はございません(^)/

社会福祉法人えのき会 00920-6-106339

暑い暑い終わるともしれぬ夏もようやく過ぎ去り、気づけば冬の冷たさが身にしみ季節となりました。今年も皆さまにおかれましては、お変わりなく過ごしてでしょうか。日頃より、えのき会の活動にご理解とご協力をいただき、心より御礼申し上げます。そして本年も、温かいご寄付や励ましのお言葉を賜りましたこと、重ねて感謝申し上げます。

皆さまから寄せられるお気持ちは、ご利用者さまの安心や笑顔につながり、私たち職員にとっても大きな励みとなり、いつも私たちを後押ししてください。

えのき会は、ご利用者さまやご家族さまの思いを大切にしながら、季節の移ろいの中で一歩一歩歩を進めてまいりました。来年も、皆さまとともに温かい時間を紡いでいけるよう、より良い支援に努め、そしてご利用者さまとともに歩いてまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



榎の家

榎の家所長 奥村千鶴

やっと夏の猛暑が落ち着き過ごしやすくなった10月、榎の家では琵琶湖博物館・びわ湖大橋米プラザへ1日外出をおこないました。天候も良く琵琶湖の風景を満喫したり、博物館で琵琶湖に生息する生き物を見てまわったりとそれぞれの利用者様が個々の時間を楽しんでいます。そして、外出の一番のメインでもあるのがランチタイム。今回の外出に向けて利用者様の楽しみの1つである食事を安全で美味しく召し上がってもらうために、持ち運びできるハンドミキサーを購入しました！新しいハンドミキサーを使用し、外出先で加工しながら利用者様に美味しく食べていただけたことで職員も本当に満足した外出となりました。

榎の家所長 奥村千鶴



シェアハウス はなみずき



シェアハウスはなみずきからの近況報告です。はなみずきは数あるえのき会の事業所の中でも新参者、一番新しい事業所ですが、それでも開所して早5年が過ぎました。

シェアハウスは生活の場というところで、職員とご利用者の距離が近い、関係性が深いというところが大きなポイントです。現在3名の方が入居されていますが、それぞれが思い思いの生活、時間を過ごされています。週末には帰宅され、車いすサッカーの練習や試合に参加。2年程前には全国優勝を果たし京都府知事から表彰を受けられる等、真剣に取り組んでおられ、この秋には大会に静岡まで行かれる方も。

また、週末はご帰宅されご家族様と有意義な時間を過ごされています。ある人は趣味の電車の旅へ。新幹線で岡山や名古屋までの遠出や、特急でお伊勢さんまで行かれたり、神戸の南京町で中華に舌鼓を打ち・・・と、趣味の時間を満喫されています。そして週明けには元気いっぱい、はなみずきに戻ってこられます。皆さんも穏やかで関係性も良く、最年長のご利用者さんが、ルームメイトに声を掛けてくださり、それにたづねられて周囲も笑顔になる・・・そんな穏やかな癒しの時間が、はなみずきには流れているなあと、日々感じています。

所長 森下耕児

ヘルパー派遣事業 めい

生活をともに支えてくれる仲間を募集中！

めい 所長 田中耕一郎

■ わたしたちが日々大切にしていること

- ・利用者さんだけでなく、ご家族がどのような支援を必要とされているかを丁寧に聞き取ること。
- ・職員側の価値観を押し付けず、利用者さん一人ひとりの価値観や生活スタイルを尊重する姿勢を大切にしています。

■ この仕事のやりがい

- ・他サービスと連携することで、利用者さんのご自宅での様子、ご家族の悩みや希望を知ることができます。



- ・その方の背景まで理解し、人生に寄り添う支援ができることが大きなやりがいです。

- ・「ありがとう。助かった！」の言葉を頂けたとき、支援が誰かの生活を支援していると実感できます。





さくらの家/さくら西町

さくらの家所長 清水直子

2013年4月にさくらの家が開所して、早12年が経ちました。

本格的な機械浴をはじめて導入し、みんなのほっこりタイムを長い間支えてくれていましたが、とうとう代替わりの時期を迎えました。

1年前から準備し、今年の8月に機械浴を新しく設置することができました。以前のものは浴槽がせりあがってきて湯船につかるというものでしたが、今回から体を洗う、湯船につかる時にのるストレッチャーが上下することで、湯船につかれるという仕様になりました。そして何より今回導入した機械浴の新機能が、マイクロバブルを発生させることができるというものです。新たな機械浴で、風呂処さくらの家で快適なお風呂ライフを楽しんでいただけるよう、職員一同頑張っています。



何でしょ？



グループホーム ハックベリー

ハックベリー所長 平井健二郎



ハックベリーの支援に入るたびに利用者さん同士が築いてこられた関係性であったり、ともに過ごされてきた時間の尊さを実感することが数多くあります。

それは通所先から帰ってこられた利用者さんを嬉しそうにお迎えされている場面であったり、ある日の手をつないで一緒に遊ばれている休日の朝であったり、調子の悪そうな利用者さんにやさしい言葉をかけられている夕食後のこと



とであったり・・・もちろん、それだけでなく衝突されることも多々ありますが、楽しいこと苦しいことをともにしながら、お互いに積み重ねてこられたものの大きさや尊さというものが、そのありふれた日常の風景の中にひそやかにでも確実に息づいています。またそのような日常の風景に私自身の心が癒されることもあり、ハックベリーは私にとっても大事な場所なんだなあ、と改めて実感する次第です。

さて日常の風景という話が出てきましたが・・・特別なイベントもそれはそれで楽しいものですが、何気ない朝の風景、いつもの夕方のやり取り、夜間の1コマ・・・そんな日常の生活をともに過ごすことができる、共有できる喜びがあるということを、私はハックベリー所属になって強く感じました。また、それがホームにかかわることの大きな魅力ではないかと思います。

グループホーム ベル

ベル所長 森下耕児



ここしばらくの間、皆さん体調など大きく崩される事も無く元気ににぎやかに過ごされています。その中でも、ここ最近は個々の余暇支援、外出などに力を入れ、思い思いの余暇を過ごしておられます。

今年は何といっても大阪万博の開催があり、ベルからも2人のご利用者がそれぞれに出かけておられます。1名の方は開催前から入念に準備を進められ、準備万端で臨まれた方、もうお1人は閉幕も見えてきた頃に、何気にテレビの万博の中継を見て「行ってみたいなあ」と呟かれ、それを耳にした職員が「是非行こう！」そんなところから始まりました。暑さや人の多さへの不安、急に言い始めた事に対する遠慮もあったのか悩んでおられましたが、



「一生に一度の経験ですよ！」の職員の声にも背中を押され、意を決して行く事に。当日は天候にも恵まれ、人はやはり多かったようですが、移動もパビリオンの見学もスムーズに回る事ができ、思い出に残る時間となったようでした。他にも事業所のイベントで、みんなで美味しい鰻を食べて舌鼓を打ち・・・等わいわいと賑やかな生活を送っています。次の目標は近い将来、また旅行に行きたいと計画や準備、行き先等のプランを練り始めている今日この頃です。

介護と仕事を両立した職員として紹介されました！

「家族の介護をしながらでも、仕事を辞めずにがんばりたい」という気持ちで、えのき会で介護休暇制度を活用しながら仕事を続けました。

介護で休むと職場に迷惑をかけてしまうと思う時もあり、時には罪悪感も抱き退職という言葉も浮かびました。介護や育児は誰にでも起こり得ること。

私の経験が誰かの心強いサポートになればと思います。

どの方法が正解かはわかりませんが、経験者と言えることは 一人で抱え込まない事。困った時はお互い様。誰かに相談してほしい！という事です。

何よりえのき会は制度が整っているので、安心して働ける環境にあるという事を伝えていきたいです。



小中加奈子さん



きくら西町作品展

スライドショーも
お楽しみに！

皆さまのご来場 お待ちしています！

2026年3月10日～13日

10時30分～14時30分

*昼食時は食介のため職員の対応はできません
ご了解ください。

今回は職員のお勧め
写真も ご用意してい
ます。御用とお急ぎでない
方は



京都市よりグループホームの見学に来られました！

2025年11月 27日 (木) 夕方4時～

★京都市保健福祉局障害保健福祉推進室

施設福祉課長 三本松賢課長以下4名の担当職員の方が

GH「ハックベリー」と「ベル」を見学。

夕方からのホームの日常を見学していただきました。

そのあと懇談をしました。大変有意義な時間でした！

京都市を通じて
一 勉会安全衛生協力会様
より障害福祉施設での物品
購入のためとして、
金 30万円 ご寄付を
頂戴しました。
「さくらの家」の利用者さ
んや職員たちと相談しなが
らベストな物品を決めたい
と思います。
☆贈呈式…十二月十七日
京都市役所北館5階にて
ご寄付ありがとうございます

編集後記

「己が何のために生きている
かと問うことは徒勞である。
人は人のために働いて支え
合い、人のために死ぬ」

「我々がこだわるのは、世
界のほんの一隅でよいから、
実事業を以て、巨大な虚構
に挑戦する良心の健在を示
すことである。万の偽りも
一つの事実には敗れ去る。そ
れが次世代への本当の遺産
となることを信じている」

中村哲さんの言

☆☆☆
日々、生き辛さを感じる
ことが多々ありますが、利
用者さんの顔を見ると「ちゃ
んと生きよう」と思います！
皆さま、この1年ありがと
うございました。

どうぞ良いお年を(f)

年末年始休業のお知らせ

2025年12月30日

～2026年1月3日

□ 発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2

東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子

(法人本部)

〒612-8002

京都市伏見区桃山町山ノ下4-4-8

電話 代表 075-605-0303(代表)

